

## 上信会越／谷川連峰 高檜山

車を持たない駅前登山隊が今回目指すのはトマ未踏ピークの高檜山。さらに昨年2月に訪れたスルス岩を組み込んだ何とも贅沢なプラン。スルス岩研究会の発足も間近か。

### 【日程】

2016年1月23日(土)  
～1月24日(日)

### 【メンバー】

栗原(L)、竹澤

### 【地形図】

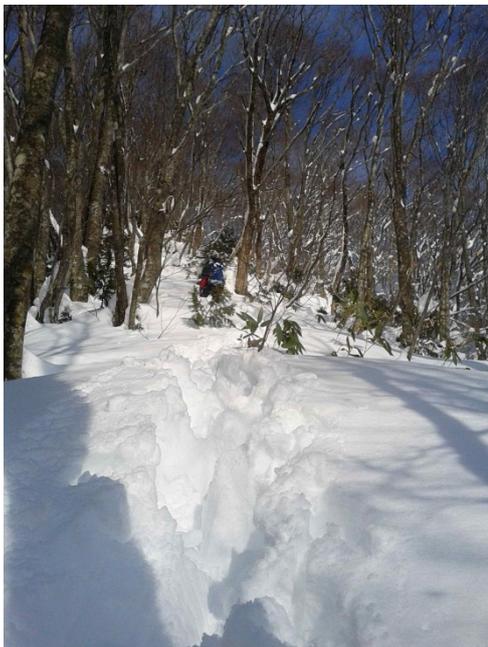
水上・藤原湖・猿ヶ京・後閑

### 【記】竹澤

1月23日(土)：晴

ラッセルの女王の異名を持つ栗原さんと、ハムストリングが未熟な新人との凸凹パーティ。過去の山行では、自分はラッセル要員として全くの役立たずであったが、今回は2人Pということもあり、先輩に頼ってばかりもいられない。栗原さんにも「今回はガシガシラッセルしてもらおうから。」と念を押される。

奈女沢林道は除雪がされていて、取付きまでの時間短縮が出来たことは幸運であった。奈女沢温泉宿すぐ手前の尾根からアイゼンを履いてトップで取付く。かかと、ふくらはぎ程度のラッセルで



ラッセルは続く

始まったが、ものの数歩で心が折れる。ラッセルが辛いと思わなくなる日はいつか来るのだろうか。c1,000付近でスノーシューに履き替える。あと300m、まだ300m。高檜山は姿を現してから、なかなか登頂させてくれない。偽ピークに何度も欺かれながら、息も絶え絶え遂に登頂。何もない所だった。

寒波の到来で翌日の天気荒れる可能性があったため、初日は可能な限り行程を進める必要があった。高檜山北のp1,266に到着したのは15:00頃。その時栗原さんより後2時間程残業の旨通達があった。p1,323を超えるとのこと。遙か彼方にそびえ立つそれを見つめる。もう笑うしかない。ガシガシ、ではなくヨロヨロとリーダーの後を追う。どうにかこうにかp1,323を越え、北西尾根を1,180付近まで下ったところで残業終了の鐘は鳴った。スタートしてから10時間

後のことであった。日が長くなり、暗くなる前にテントを張ることが出来たのは幸いであった。

### 1月24日（日）：晴のち曇、時々雪

予報とは裏腹に、夜の間に雪が降った形跡は無く、風の音もしなかった。朝も穏やかで、荒天でのテント撤収も免れた。昨日の残業のおかげか少し気持ちに余裕を感じる（体に余裕はないのは相変わらずであるが）。さて、本日のメインイベントはスルス岩再訪である。山と高原地図には記載されている、不思議な名を持つこのピークを、私と栗原さんは昨年2度目指している（1度目は途中敗退）。偶然か必然か、今回もまたスルス岩に引き寄せられたのであった。そのうちトマでスルス岩研究会（会長：栗原さん）が発足するのではないかと考えている。昨年訪れた時は、岩群の登頂部だけが雪から出ている感じであったが、今年はそれほど雪に埋まっておらず、異なった趣を感じさせる。心の中で再訪を約束して下山を開始すると、雪が本格的に降り出した。



スルス岩との再会を喜ぶ

下山では分かりにくい箇所が2カ所あったが、去年も同じところで悩んだようだ。1つ目はスルス岩を超えてすぐの尾根がはっきりせず、念のためGPSで確認。2つ目はc800位の分岐で1本隣の急な尾根に引き込まれてしまった。登り返して正しい尾根に乗り、無事林道へ出ると、麓は眩しいくらい快晴であった。水上駅行きのバスをじっと待っている1時間が、この2日間で一番寒く感じた。水上から暖かい電車に乗ると体も気持ちも緩み、深い眠りに落ちた。

今回はルーファイのコツや雪山生活技術について、栗原さんにマンツーマンでアドバイス頂けたことは大変貴重であった。今後の山行に活かせるようにしたい。

#### 【行程】

- 1/23 上牧駅(7:02)～奈女沢林道～尾根取付き（奈女沢鉱泉）(8:01)～高檜山(13:13)  
～c1, 180 付近C1 (p1, 323 北西) (17:00)
- 1/24 C1(7:08)～～スルス岩(9:03)～北尾根取付き (12:01)～ゆびそ入口バス停 (12:40)